

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

12
No.407



温故知新 ～一途に社協道～



第61回福井県社会福祉大会
ふくい・つながりフォーラム2014

11月8日（土）福井県生活学習館（ユ一・アイふくい）にて、第61回福井県社会福祉大会が開催されました。県内の福祉向上に功績のあった民生委員児童委員、福祉委員、福祉施設・団体・社会福祉協議会の役職員、ボランティア等298名、14団体に福井県社会福祉協議会 清川会長より表彰状が授与されました。

また、新たな表彰区分として、地域福祉実践の功績を評価・顕彰する「ふくい地域福祉実践賞」の表彰が初めて行われるなど、約500名の参加者のもと、盛大に行われました。



福井市	榎原純子	啓蒙保育園
福井市	佐々木麻紀	いと勢保育園
福井市	佐藤幸代	西藤島保育園
福井市	澤崎由美	ふじ保育園
福井市	柴田幸恵	和田保育園
福井市	清水佐智代	上北野保育園
福井市	清水めぐみ	西安居保育園
福井市	杉本久巳恵	社中央保育園
敦賀市	杉本由起子	中郷保育園
福井市	鈴木博美	東郷保育園
鯖江市	鈴木万須美	ゆたかこども園
福井市	高島恵利子	かわだ保育所
福井市	高松真由美	あさかぜ保育園
坂井市	田島義幸	春江みどり保育園
勝山市	田中るり子	ケイテール保育園
越前町	月田有香	宮崎中央保育所
坂井市	寺岡留美子	春江東保育所
越前町	内藤俊穂	西徳寺保育園
福井市	中川京子	啓蒙保育園
おおい町	中川千恵子	佐分利保育園
あわら市	中出眞利子	芦原幼児園
福井市	南部晶代	福井保育所
あわら市	野尻都希子	芦原幼児園
坂井市	長谷川美代子	いと勢保育園
福井市	畑千絵	本郷保育園
福井市	服部悦子	東郷保育園
越前町	濱野たか子	西徳寺保育園
福井市	原田美香	河合保育園
あわら市	藤野季枝	金津保育所
福井市	藤井みゆき	森田保育園
福井市	堀田佳代子	六条保育園
美浜町	前田美也子	あおなみ保育園
福井市	牧野香	めぐみ保育園
美浜町	牧野佐也佳	せせらぎ保育園
坂井市	増田良枝	いと勢保育園
美浜町	水原智美	あおなみ保育園
坂井市	宮下美智子	安田幼児園
坂井市	毛利真紀	春江西保育所
福井市	茂原瑞恵	いづみ保育園
あわら市	門前美代子	金津保育所
坂井市	柳美江子	いと勢保育園
福井市	山内敏恵	北部保育園
福井市	山田晶子	社中央保育園
福井市	山田友恵	東郷保育園
福井市	吉川伸江	啓蒙保育園

社協・民間団体功労表彰 (36名)

敦賀市	浅妻臣夫	南地区社会福祉協議会
敦賀市	浅妻直美	敦賀市社会福祉協議会
福井市	上田恵美子	清明地区社会福祉協議会
福井市	上埜静代	国見地区社会福祉協議会
越前市	永當保	越前市身体障害者福祉連合会
敦賀市	大原信宏	敦賀市社会福祉協議会
敦賀市	岡本政憲	敦賀市社会福祉協議会
福井市	小川英子	福井市婦人福祉協議会
敦賀市	奥野澄夫	西地区社会福祉協議会
福井市	小澤永嗣	福井県社会福祉協議会
福井市	小澤和弘	福井県社会福祉協議会
福井市	加藤幸子	湊地区社会福祉協議会
福井市	榊和男	松本地区社会福祉協議会
福井市	後藤智津子	福井市母子寡婦福祉連合会
福井市	笹原義男	宝永地区社会福祉協議会
敦賀市	柴田和子	北地区社会福祉協議会
福井市	志摩むつみ	宝永地区社会福祉協議会
敦賀市	杉田正一	東郷地区社会福祉協議会
越前町	杉本美由紀	越前町社会福祉協議会
福井市	鈴木忠子	福井市介護者家族の会「かたらい会」
越前町	高橋公恵	越前町社会福祉協議会
福井市	谷口洋子	西藤島地区社会福祉協議会
敦賀市	綱澤喜靖	敦賀市社会福祉協議会
福井市	堂前千恵子	福井県社会福祉協議会
福井市	飛山嘉恵	福井市母子寡婦福祉連合会
敦賀市	中山嘉恵	東郷地区社会福祉協議会
福井市	南嘉代子	松本地区社会福祉協議会
福井市	増田直文	福井県社会福祉協議会
敦賀市	増田恵美子	北地区社会福祉協議会
越前町	松山岩一	越前町社会福祉協議会
高浜町	宮本善郎	高浜町社会福祉協議会
福井市	山崎利一	福井県社会福祉協議会
福井市	山本純江	福井県社会福祉協議会
福井市	米倉啓子	足羽地区社会福祉協議会
福井市	若泉しげ子	順化地区社会福祉協議会
敦賀市	若林千枝子	東郷地区社会福祉協議会

永年勤続表彰功労表彰 (16名)

福井市	五十嵐典子	えびた保育園
小浜市	石崎ちよ子	ひまわり荘
坂井市	岩田さおり	福井県社会福祉協議会
福井市	漆崎由里江	春江みどり保育園
福井市	岡田幸江	啓蒙保育園
福井市	小林佐江子	社保育園

社会福祉協議会優良表彰 (1団体)

大野市 和泉地区社会福祉協議会

優良ボランティア (個人) (27名)

越前市	内田恵子	鯖江市	月田ますみ
勝山市	奥村禮子	鯖江市	戸田清枝
大野市	歸山夏實	永平寺町	栃川千糸子
越前市	北佳子	坂井市	中島美佐子
勝山市	小寺恵美子	永平寺町	中野ちとせ
永平寺町	齋藤絹子	坂井市	西澤朋子
坂井市	齋藤美知子	勝山市	秦祥司
勝山市	酒井昭子	越前町	秦慈美
勝山市	笹木貞一	鯖江市	福岡昌江
勝山市	島田安成	大野市	三嶋正美
永平寺町	竹原フミコ	大野市	宮山絹子
鯖江市	田島千鶴	坂井市	安江久美子
勝山市	多田誠治	坂井市	山本睦子
永平寺町	多田ミイ子		

優良ボランティア (11団体)

越前町	朝日地区赤十字奉仕団
越前町	朝日地区婦人福祉協議会
永平寺町	おたっしや夢サロン 花みずき
鯖江市	がんこっこの会
鯖江市	鯖江 愛響青空会
福井市	さわやかアンサンブル
越前町	J Aヘルパー さざんか会
越前町	じゃがいもの会
越前町	手話サークル すいせん
越前町	東部キッズ ひびきっ子
越前市	民謡昭明会 ボランティア部

ボランティア優良表彰 (福祉協力校) (2社)

南越前町	南越前町立 河野小学校
南越前町	南越前町立 南条小学校

地域ぐるみによる生活(福祉)課題の解決に向けて

～平成26年度「第1回ふくい地域福祉実践賞」受賞団体紹介～

近年、身近な地域で顕在化してきている様々な生活課題に対し、住民誰もが当事者として関わり、地域ぐるみで解決に取り組むといった、地域福祉の推進が非常に重要になっています。

こうしたなか、福井県社会福祉協議会では、各地域で取り組まれている優れた福祉実践活動を掘り起こし、本県の地域福祉の一層の推進に寄与することを目的に「ふくい地域福祉実践賞」を創設しました。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の生活課題の解決に向け自主的な活動に取り組む個人・団体を広く顕彰していくもので、第1回目の今年度は、実践大賞1団体、優秀実践賞3団体の計4団体が受賞し、去る11月8日(土)福井県生活学習館にて開催された「第61回福井県社会福祉大会」にて表彰されました。今回、受賞された団体の活動をご紹介します。

福井県地域福祉実践大賞

NPO法人 今立ファミリーサポートひなたぼっこ(越前市)

当団体は、「一人暮らし高齢者等への在宅生活を支援する仕組みが必要」との思いを持った、旧今立町内の女性有志が集まり、平成13年にNPO法人格を取得。越前市粟田部地区を中心に、高齢者の居場所づくりや安否確認を兼ねた弁当宅配を通じて地域ぐるみの助け合い活動に取り組んでいます。

活動内容

- 食事会を中心としたミニデイサロンの運営
- 高齢者を対象とした生きがい教室(絵手紙づくり、パソコン教室等)の開催
- 食事づくりが困難な一人暮らし高齢者等への弁当宅配
- 日常生活に支援を必要とする高齢者の家事援助等(掃除、買い物、話し相手等)



福井県地域福祉優秀実践賞

NPO法人 さわやかさばえボランティア虹(鯖江市)

当団体は、「地域住民誰もが住み慣れた地域で、安心して生活できる地域づくりが必要」との思いを持った、鯖江市内の有志が集まり、平成14年にNPO法人格を取得。鯖江市を中心に、地域助け合いの心を根底に置いた「共生社会」の実現にむけ、子ども、高齢者、障がい者すべてを対象とした各種支援活動に取り組んでいます。

活動内容

- 日常生活に支援を必要とする高齢者の家事援助等(掃除、買い物、身体介護等)
- 子守りの手伝い、保育園への送迎等による育児支援
- 移動困難者の外出支援(病院送迎・付添い、買い物同行、日帰旅行付添い等)
- 交流拠点「虹の居場所」での地域住民を対象とした食事会等の開催



いけだエコキャンドル実行委員会(池田町)

「いけだエコキャンドル」は、池田町が目指す、自然や人、生活文化などの資源や技術を結びつけた「地域資源連結循環型農村」の取り組みのひとつである廃油の資源再生化運動「菜の花プロジェクト」の一環として、平成17年から始まったもので、町民が主体となって実行委員会を立ち上げ企画・運営を行っている、環境を切り口とした住民総参加型のまちおこし事業の取組みの一つです。

活動内容

- 廃油リサイクルによるろうそくづくりおよびキャンドルライトアップイベントを通じた環境問題意識の向上および世代間交流、地域の活性化



あまさか

海士坂自主学級(若狭町)

若狭町西部に位置する海士坂集落は、山と水田など豊かな自然に囲まれた集落で、伝統行事(県の無形文化財や青年会による囃子の奉納)も数多く残っている戸数約40軒、人口約140人の山間の農村集落です。

自主学級は旧上中町時代に集落自治の活性化を図ることを目的に各集落単位に設置された住民参加型の組織で、海士坂自主学級では世代間交流や伝統文化の継承活動を通じた近所同士のコミュニケーション強化等による福祉コミュニティづくりに積極的に取り組んでいます。

活動内容

- 休耕田を活用した稲作づくり(田植え、稲刈り、収穫祭)やしめ縄づくりなど、年間を通じた活動による、伝統文化の継承や世代間交流によるご近所付き合いや区民のふれあいの活性化



ふくし広報コンテスト 2014 受賞団体決定

広報力の強化を通じて福祉活動の普及啓発を図るために、県内の社会福祉法人・特定非営利活動（NPO）法人が発行する広報誌を対象に、「ふくし広報コンテスト2014」を実施しました。

審査員による第1次、第2次審査の結果、8団体が入賞し、11月8日（土）に開催した第61回福井県社会福祉大会の式典において、県社協 清川会長より表彰状、トロフィーが授与されました。



広報コンテスト受賞団体

部門Ⅰ サービス利用者・家族等の読者を対象に発行している広報誌

最優秀賞



社会福祉法人 ハスの実の家
「ハスの実通信」

優秀賞



社会福祉法人 ほのぼの苑
「ほのぼの」



NPO法人
心の健康相談室こだちのもり
「こだちのもり通信」



社会福祉法人 足羽福祉会
「愛道（あいどう）」

審査員特別賞



社会福祉法人 どろっぶす
「すくすくだより」

審査員コメントより

「モノクロの誌面に各コーナーがうまくまとめられていて、上質な誌面仕上がりになっている。」

部門Ⅱ 関係機関、地域住民等幅広い読者を対象に発行している広報誌

最優秀賞



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会
「YELL（エール）」

優秀賞



社会福祉法人 福井市社会福祉協議会
「まごころ」

審査員特別賞



社会福祉法人 美浜町社会福祉協議会
「社協だより」

審査員コメントより

表紙作成に“参加型”の工夫があり、おもしろい。

運動5周年記念メモリアルイベント～ オーラム2014を開催

記念講演 & トーク・カフェ

記念講演では、戦場カメラマン わたなべ よういち 渡部 陽一さんに「世界で見つけた人と人との素敵なつながり」というテーマでご講演いただきました。

テレビと同じ語り口調で、ジェスチャーを交えて、現地の撮影写真を見せながら、渡部さんの活動内容や人と人とのつながりの大切さを大変分かり易くお話しいただきました。

トーク・カフェでは、喫茶店「カフェ・ド・ミキティ」を舞台に、出演者の皆さんをお客様としてお迎えしてステージ上でトークを繰り広げました。

存在感のあるママ役の長谷川さんと機転の利いたさかいさんの進行のもと、渡部陽一さんや一途の皆さんから日頃感じているつながりの大切さ等についてお話しいただきました。



トーク・カフェ



出演者 渡部 陽一さん

3兄妹ソーシャルバンド「一途」

進行役 フリーアナウンサー さかい ちよみさん

勝山市社会福祉協議会 長谷川 美貴さん



「つなぐれボランティアの輪」推進運動5周年記念展

「つなぐれボランティアの輪」推進運動5周年を記念して、9月のボランティア月間に県内17市町を縦断したキャラバン活動の展示、キャラバンで作成した「つながりフラッグ」の展示、福井県社会福祉協議会ボランティアセンターマスコット「ランティー」の17市町で当地版「あなたのまちのランティー」作品展示などを行いました。



セルフ商品販売会(東北応援コーナー)

障がい者事業所等で作られたセルフ商品や東日本大震災の被災地の商品の販売が行われ、多くの方に購入していただきました。収益は障がい者就労支援や被災地の復興支援等に役立てられます。



ちょボラdeつながり体験コーナー

ちょボラとは「ちょっとしたボランティア」の略。バルーンアートや折り紙、使用済切手の仕分けなど、日常の中でできるちょっとしたボランティアをスタンプラリー形式で体験していただき、ボランティアを身近に感じていただきました。



第5回エコキャップアートコンテスト

このコンテストは、ペットボトルのキャップを使って大きな絵(アート)を制作するもので、県民のみなさんが「つながり」を実感したり、その「楽しさ」や「喜び」を共感したりする機会づくりを目的に、平成22年度から実施しています。

第5回目となる今年は『笑顔(えがお)』をテーマに1畳部門、2畳部門あわせて29チームがエントリーし、フォーラムにおいて、作品展示・審査・表彰を行いました。どちらの部門も、力作ぞろいで、会場では、「迫力がある」「デザインがすてき」「テーマのとおり、作品を見ていると笑顔になれる」等の声が聞かれました。

大賞・優秀賞の4作品は、12月15日～19日の間、福井県庁1階の県民ホールで展示します。



受賞されたグループのみなさん

1畳サイズ部門

- 大賞 敦賀市消費者連絡協議会
- 優秀賞 勝山平泉寺児童館
- すまいる賞 朝日小学校 環境福祉委員会

2畳サイズ部門

- 大賞 宮崎支部子ども会育成連絡協議会
- 優秀賞 木村病院 作業療法室
- すまいる賞 大日園 いきいき活動班



大賞 (1畳部門)



大賞 (2畳部門)



優秀賞 (1畳部門)



優秀賞 (2畳部門)

このコンテストで集まったキャップは、約289,000個(ワクチン336人分)

コンテストで使用したキャップは、グループごとにリサイクルし、その売り上げで海外の子どもたちにワクチンを提供するエコキャップ運動に寄付していただきます。キャップ860個で1人分のポリオワクチンに換えることができます。



平成26年度「福井県ボランティア作文コンクール」入賞作品決定

福井県社会福祉協議会では、『つなぐボランティアの輪』推進運動を展開し、さまざまな事業を実施しています。このコンクールは、その事業の一つとして、作文を通じて、県民の皆様のボランティア活動への関心や参加意欲を一層高めてもらうことを目的に平成9年度から実施しており、今回が18回目となります。今年度は「ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと」「ボランティアについての自分の思い・考えていること」をテーマに440点のご応募があり、厳正な選考の結果を経て、次の皆さんが入賞されました。

小学生の部:58点 中学生の部:206点 高校生の部:129点 一般の部:47点 (敬称略)

最優秀賞			
小学生の部	『ボランティアとは』	敦賀市立中央小学校	6年 島津孝臣
中学生の部	『倍返し』	福井大学教育地域科学部附属中学校	3年 上中啓右
高校生の部	『世界を知ること』	啓新高等学校	3年 白石愛莉
一般の部	『ボランティア活動への道』	福井市	石田万里子
優秀賞			
小学生の部	『はじめてのボランティア』	坂井市立東十郷小学校	5年 松岡愛会里
中学生の部	『自分が思うボランティアについて』	北陸学園北陸中学校	1年 福井航輝
高校生の部	『私がボランティア活動で学んだこと』	仁愛女子高等学校	1年 加藤詩歩
入選			
小学生の部	『自分への挑戦』	敦賀市立中央小学校	6年 久保結香
	『「自ら」見つけるボランティア』	敦賀市立中央小学校	6年 植本千夏
	『公園の草とり』	福井市社西小学校	4年 酒井雄人
中学生の部	『障がいのある人に対して』	鯖江市鯖江中学校	2年 竹澤悠葉
	『私たちに出来る事』	福井大学教育地域科学部附属中学校	2年 佐々木唯加
	『川と心の洗濯』	越前市武生第一中学校	1年 大平唯加
高校生の部	『ボランティア活動を考える』	福井大学教育地域科学部附属中学校	1年 西畑陽夏
	『ボランティアと自分の心境』	福井県立科学技術高等学校	2年 宮川泰史
	『夢に向かって』	啓新高等学校	2年 彦坂加之
	『ボランティアをして』	仁愛女子高等学校	1年 辻吉華
	『学んだこと』	福井県立福井農林高等学校	1年 川井優樹
一般の部	『ボランティアから学んだこと』	大原スポーツ医療保育福祉専門学校	2年 坪川友樹
『応援したい』	大原スポーツ医療保育福祉専門学校	1年 天野玲花	
学校賞			
		福井市豊小学校	
		福井県立丹南高等学校	

※入賞作品は本会ホームページ [http://www.f-shakyo.or.jp/volunt] に掲載しています。

最優秀賞(小学生の部) 「ボランティアとは」

敦賀市立中央小学校 6年 島津 孝臣



西川知事より授与

「いつしよに来てくれな
い？」
母の言葉にうんざりし
た。ゴミステーションのそ
うじにまたかり出された。
「面どうくさい。臭そう。
もういや。そうじなんかし
ないで遊びたい。」という
いやな気持ちがあふれでて
きた。今回2回目のそうじに
行くけれど、前回の
大変さを思い出すと、前
今度もやっぱり収集日じゃ
ないのにごみが出されて
いた。指定袋に入っていない
ごみや束ねられていない
雑誌、床に散乱していた紙
くず、蟻やウジ虫・・・。
前回同様とてもひどい状
態だった。まずは、ごみ
の分別をした。それだけで
暑さと臭いで頭が痛くな
った。次に、ごみを全部外
に出し、床のそうじをした。
ごみをはき出して水を流
してブラシで床をこすった。
そうじをしている間、
「臭い。頭が痛い。もつと
マナーを守って分別してく
ればこんなに時間がかから
なかった。」という気持ち
でいっぱいだった。その正
直な気持ちを母にうったえ
た。すると、「誰かがやらな
いときたなくなる一方だ
よ。孝臣がやることでみな
が気持ちよく使えるでし
よ。」と母は言った。その
言葉を聞いてこれがボラ
ンティアなんだなあと思
った。こんなそうじをして
も一円ももらえないし、誰
かにほめられるわけでも
感謝されるわけでもない。
それどころか気が付いて
さえもらえないかもしれない
。だけど逆のこともあるな
と気が付いた。誰かのボ
ランティアのおかげでぼく
が気持ちよく過ごしてい
ることもあるんじゃないか
。と思った。そのことに
気が付いて、いやだなと思
う気持ちが少し消えてい
った。
面どうくさいという気持
ちが全てなくなっただけ
というわけではないが、ぼ
くのしたことが誰かの役

最優秀賞(中学生の部) 「倍返し」

福井大学教育地域科学部附属中学校 3年 上中 啓右

「ボランティアってどん
んな活動？」
「ボランティアってどん
んな活動？」
こんな疑問を持った僕
は、被災地での活動や自然
環境を守るための清掃活
動、高齢者、障がい者へ
の支援等説明してくれた
が、中学生の僕にはボラ
ンティア活動なんて無理
だと自分に都合よく解決
した。すると母は僕の心
を見透かしたように
「道のゴミ拾いや公園
の清掃活動等、心掛け
次第で何だってできるん
じゃない？」とうす笑いを
浮かべながら聞いてきた
。そんな当たり前の事が
ボランティアになるのか
と少し腹が立ったが、そ
んな当たり前の事が今の
僕に出来ているのだろうか
かと新たな疑問が生ま
れてしまった。
こんなもやもやした気
持ちは僕に、ある病院で
ボランティア体験させて
いた機会があった。ボラ
ンティアの内容は、入院し
ている軽い認知症のお年
寄りと一緒に遊んだり、
うたを歌ったりするとい
うものだ。僕に出来るの
かという不安と、そんな
簡単な事々々という思
いが入り混じっていた。
体験前に看護師さんか
ら「ボランティアとは自
分の自由な意志で、金銭
的な報酬を期待せずサ
ービスを提供すること
です。患者さんには常
に、こやかに、優しく、
丁寧な言葉で礼儀正しく
接して下さい。」と説
明された。
看護師さんに連れられ
、ふれあい室に行く途
中、不安と緊張が元気
よくい掛ってきたが元
気よく挨拶をしようと
心に決めていた。
「こんにちは。」と
言っ部屋に入ると、笑
顔であいさつしてく
れた方、うなずくだけ
の方、無反応な方等、
いろんな反応で僕を出



迎えてくれた。一緒に活動した大人のボランティアの方はオカリナを吹いたり、歌ったりとお年寄りも笑顔で楽しそうであったが、僕は何を話しているのか言葉も出せずに、ただお年寄りの隣に座っているだけだった。

そんな僕に、一人のお年寄りが「若いお兄ちゃんが側にいるだけでも元気になるわ。」と言って僕の手を「ぎゅっ」と握ってきた。僕は少し驚いたが、その言葉にとっても助けられ、思わず手を握り返し、お互い笑い出してしまった。緊張もほぐれ、一緒にうたも歌い、おやつも食べ、少しの間ではあったが楽しいひと時を過ごす事ができた。お年寄りが床に投げ捨てたおやつのは、一緒に拾いゴミ箱へと僕が捨てた。

「また来ねの。」という温かい言葉が忘れられない。

僕はこのボランティア体験を通して、大きな勘違いをしていたことに気付いた。ボランティアとは、誰かの為にとか、与えるものとか、無償のサービス提供のみと思っていた。ところが、今回、お年寄りとふれあった事で自分自身の存在価値に気づき、元気をもらい与えた事以上に、倍返しとなつて、僕の財産となった。

この経験を機に、もっと色々なボランティア活動に参加し、社会の一員として貢献できるよう、成長していきたいと強く感じた。

最優秀賞 (高校生の部)

「世界を知ること」

啓新高等学校 3年 白崎 愛莉

私は今年の夏、カンボジアに研修に行きました。ノリア孤児院では子どもたちと交流をして、草刈りや雨で倒れてしまったバナナの木の修復作業を行いました。子どもたちと交流する中で言葉の違いに戸惑いました。子どもたちとの間に言葉の壁を感じ、どう接したらいいのか分かりませんでした。伝えたいことが伝えられなかったり、子どもたちが伝えようとして聞いていることが理解できなかつたりしてとても焦りました。しかし、子どもたちと仲良くなりたいたいと強く思っていたので、積極的にコミュニケーションをとろうと頑張

りました。子どもたちが話す言葉が分からないからといって理解できないと決めつけてしまっていたのではないと学びました。慣れない少しの英語とジェスチャーを使い、上手にコミュニケーションがとれたときは本当に嬉しかったです。言葉が通じなくても相手に伝えたい、相手のことを理解したいという強い気持ちがあれば言葉の壁はなくなることを学びました。

研修中には物乞いをする子どもや物を売る子どもに声をかけられました。私はどうすることもできず、心が痛みました。カンボジアの厳しい現実を目の当たりにしました。

日本では決して見る事のない光景だったので驚き、ショックでした。幼い子どもがお金を必死に手に入れようとしている姿が心に残っています。カンボジアの子どもたちは親の経済力の問題や家の手伝いをしなくてはいけないため学校に行けない子どもが多いと学びました。日本では小学校に行くことは義務づけられているため、学校で勉強できることが当たり前だと思っていました。しかし、学校で勉強できることは幸せなことだと学びました。

カンボジアで過ごしてみて日本がどれだけ便利できれいで豊かな国なのかということがよく分かりました。日本から離れてみたことで本当によく分かりました。当たり前だと思ってしまう毎日がとても幸せなことなのだと気付くことができました。



しなければならぬと思いましたが、カンボジアに行くまでは日本以外の国々を遠く感じていました。自分にとっての世界は日本だけでした。しかし、日本を飛び出してカンボジアに行ったことで見える世界が広がりました。日本以外の国々を身近に感じるようになりました。もっと色んな国に行ってみたいと思うようになりました。また、世界中で苦しんでいる人々のために

何か役に立ちたいと思うようになりました。世界中を見渡せば、私が知らない厳しい現実や問題がたくさんあると思います。国が違うからといって自分には無関係だと目をそらしてはいけなと思っています。私は世界中で起きている問題を知ることが大切だと思います。知ったからといって誰かの役に立てるわけではありません。

最優秀賞 (一般の部)

「ボランティア活動への道」

福井市 石田 万里子

私がボランティアという言葉に強い関心を抱き、活動のきっかけになったのは、二人の彼女の存在だった。小学卒業以来、初めて開催された五十年ぶりのクラス会で、童心にかえって再会を喜び合った彼女との楽しいひと時、その後、一、三年毎に開かれたクラス会に、彼女の姿はなかった。が、少しばかりの不安はあったが余り気にも止めず、五、六年も過ぎただろうか。彼女が施設に入所している事を知らされた。「誰にも逢いたくない」と聞いていただけに、躊躇しながら病室のドアをノックした。

美人で長身で、バレエのアタッカーとして高校まで活躍していた彼女とは想像もつかない姿になりながら、右半身と声を失った不自由な体で、今までの苦しみと逢えた嬉しさを、必死で伝えようとして、私にしがみつき、目で訴える彼女が、幼子のようにいとおしく、思わず抱きしめ二人で涙のようにいとおしく、思わず抱きしめ二人で涙の記憶は今も鮮明に心に残っている。それ以来、度々見舞うようになった私に、何時も、満面の笑顔で待っていてくれる彼女に、私自身が癒されている事に気づいた。言葉がなくても、信じ合える者だけが、知り得る心の繋がりを実感した。

その頃の私は、定年後の健康維持と生きがいにと、長年続けていた趣味に、人間関係でギクシャクしていた。「楽しくなければ趣味とはいえない」と持論していた私は、十五年余り続けていたものをあっさりと辞めてしまった。楽しみをなくした私は、何をやる気力もなく、一日を過ごす日々が多くなり、次第に人に会う事をも避けるようになっていった。それはまさにうつ病の前兆であった。

その時、出会った彼女は、私の人生を大きく変えた。ある時、彼女は小規模デイサービス施設に私を誘った。介護歴二十数年という彼女は、極自然体で、優しく体をさすりながら、笑顔で話しかけ、相手おもしろい姿勢に、私は感動し心を奪われた。自分出来る事を、人の為に出来る感謝の心こそ、真のボランティアだと教えられた。

この二人の彼女との出会いによって、私は自分の居場所と新しい生き方を見つける事が出来た。共感し合った彼女と地域の民生委員、社協へ働きかけ、各分野で老後を楽しんでいる仲間を集め、芸能ボランティア優和会を立ち上げてから六年目を迎えた。長寿大団日本、今男女共平均寿命八十才を超えた一方、少子化問題が深刻になっている現状、高齢者が長い人生を心身共に元気で生きる事への重要性が求められている。元気で長生きの秘訣は笑う事だといわれている。毎日試行錯誤しながら、題材を考え、舞台、衣裳等、創意工夫を重ね、必ず笑いを折り込み大喜ばれ私自身も元気で生きがいをもらい感謝している。ボランティアには色々な形がある。

二〇一一年、東北大震災では、多くの労働力を無償の人々が支え、復旧、復興に貢献し、今、新しい町へと変わりつつある。この活動を通して、人と人との繋がりは、心と心の強い絆を結び大きな輪に広がっていく事を、痛感し私にとって生涯の宝物である。私達の活動は微力ながら、地域貢献の一助となり、人の為に役だっている事に、ほこりと感謝を持ちながら、これからも、心待ちにしている人達がいる限り、各地へ元気で笑いを届けていけたらと願っている。



新しい募金方法のご紹介

スマホをかざすだけで、赤い羽根に寄付ができます。

かざして募金

「かざして募金」とは、専用アプリをインストールしたスマートフォンで、赤い羽根のロゴ等にかざすだけで、携帯電話利用料金と一緒に寄付ができる仕組みです。クレジットカードの番号入力不要で、毎月の定額寄付も選べます。ぜひ、新しい募金を体感してみてください。



ポスターやチラシ等にかざすだけのシンプル操作



携帯電話利用料と一緒に支払い^{※1}



クレジットカード番号等の入力不要^{※1}

※1 ソフトバンク以外のお客さまは、クレジットカードでのお支払いとなるため、クレジットカード番号等の入力が必要です。募金の領収書発行はできません。

- アプリタイトル : かざして募金
- 対応機種 : スマートフォン
- 寄付金額単位 : 100円、500円、1,000円、3,000円、5,000円、10,000円
- 月額使用料 : 無料

※iOS版は2014年夏頃サービス開始予定 ※アプリケーションのダウンロードおよびWEBサイトへのアクセスは別途通信料が発生します。 ※法人契約等、ご契約内容によってはご利用できない場合があります。 ※募金の領収書発行はできません。

Androidアプリのダウンロードはこちらから



アプリの使い方

- 1 Google Play™ ストアよりアプリをインストール



- 2 専用アプリを立ち上げ、登録された寄付先(非営利団体)のポスターやチラシ等に「かざす」だけ



- 3 専用サイトにアクセス、最短2タップで募金が完了^{※1}
選択した金額を毎月、継続して寄付することができます。^{※2}



※1 ソフトバンクのスマホ以外でかざすお客さまは、クレジットカード決済となるため、異なります。
※2 継続寄付の解約は、支援団体リストの最下部からできます。



共同募金の助成を受けて活動する団体からのメッセージ

安全で美味しい野菜をみなさんに 社会福祉法人 福授園



福授園で農作業を始め 20 年近くたちます。当初は工場で眼鏡関係の仕事がほとんどでしたが、細かい作業や座っての作業が苦手な利用者が、やりがいを持ってできる作業にと農作業を始めました。

農耕で売上げを伸ばしていくことはとても大変ですが「おいしく安全な野菜」を作り、これを生きがいにして自信をもって毎日を送れる場所を作りたいと思います。

この度、収穫した野菜を洗って重さを計って束ねる作業場が手狭になりましたのでプレハブの作業所を設置をしたいと共同募金に申請しました。

支援員たちと利用者の方々と力を合わせ頑張りますので、皆さんの力をお借りできればと思っています。